

技報第20号へ向けて

審議役 氈 受 昌 和

20世紀も余すところ10年を切り、21世紀の足音が間近に近づいていますが、技報も今年には第10号というこうとで、一つの区切りの年を迎えました。

技術研究発表会の中から、特に優れた論文を選んで、技報という形でとり纏めるようになってから既に10年の歳月が経ったわけですが、その内容もその時々を反映したものが次々と登場し、まさに公団の技術の歴史をそのまま生々しく伝えてきています。公団の事業も設立以来、幾多の試練を経てまいりましたが、最近では、量的にも質的にも、且つての最盛期と言われた万博時をはるかに凌ぐ勢いです。こうした状況の中で、職員の皆さんが、日頃たずさわっている業務の中から一つのテーマを見つけ、それを掘り下げ、一編のペーパーに纏め上げるという不断の努力が続けられていることは、誠に頭の下がる思いが致します。その内容も、最近では極めてバラエティに富み、充実度が増していますが、これらを積み重ねていくことにより、小さな個人の財産がより大きな組織の財産となり、さらに将来、また新しい財産が生まれる源となります。公団では現在、関西新空港関連で湾岸線を中心に各方面で華々しく事業を展開し、また一方では、既供用路線のよりきめの細かい管理を遂行するという多忙な毎日を送っていますが、さらに、湾岸線の西伸部、第二環状線、京阪連絡道路等々、将来の新しい事業の具体化に向けて、日夜たゆまぬ努力が重ねられています。

技報も、これからの10年は、これらの事業と共に歩んでいくことでしょう。次の区切りの第20号が発刊されるのは21世紀です。その内容が、現在のものより更に卓越したものとなるよう、その日に向けて職員の皆さん一人一人が、信念と情熱と夢をもって、一步一步着実に前進していかれるよう、心より期待します。